

令和4年度入学 一般選抜 試験問題の出典

盛岡短期大学部 生活科学科

種別	大問番号	著者名	著作物名	書名等	版元
小論文	生活デザイン 専攻	北村 文	「ジェンダーを ^{する} 逸れる、盛る、かき乱すファッション」	『ファッションで社会学する』藤田結子・成実弘至・辻泉 編，有斐閣，2017年，pp.112-114より，一部改変	有斐閣
	食物栄養学 専攻	落合 敏	^な 食べない人、 ^{ひと} 食べられな ^な ^{ひと} い人の ^{かいごしょく} 介護食メニュー	講談社，2007年，pp. 20-21より，一部改変	講談社

令和4年度 一般選抜

短期大学部

小論文 (90分)

学科・専攻名	ページ
生活科学科 生活デザイン専攻	1～2
生活科学科 食物栄養学専攻	3
国際文化学科	4～6

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 志望する学科・専攻により問題並びに解答用紙が異なるので注意ください。
- 3 この問題冊子は6ページあります。なお、下書き用紙が2枚あります。
- 4 試験中に問題冊子及び解答用紙の印刷不鮮明、ページの脱落などがあった場合は、手を挙げて試験監督員に知らせください。
- 5 解答は、必ず黒鉛筆(シャープペンシルも可)で記入し、ボールペンや万年筆などを使用してはいけません。
- 6 解答用紙(各学科・専攻別)には、氏名及び受験票と同じ受験番号を忘れずに記入ください。
- 7 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入ください。
- 8 下書きの必要があれば、下書き用紙を利用してかまいません。
- 9 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰りください。

次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

私は女だ、とか、あなたは男だ、とか、彼女は女らしいとか、彼は男らしいとか、私たちはふだんあたりまえのように言います。このジェンダーの考え方を、すこし疑ってみましょう。

社会学にとって、「女は女らしい」「男は男らしい」というのは、あたりまえではありません。第一に、私たちの誰もが知っているように、女らしくない女性も、男らしくない男性も、この世界にはたくさんいます。第二に、私たちは女または男の身体をもっていればそのまま自動的に、女らしくなり男らしくなるわけではありません。そのような身体をもつ女あるいは男として育てられる過程で、身近な他者から、そして世間から、ふさわしい振る舞いを教えられ、それを体得していくことで、女／男らしくなっていくと考えられます。第三に、その「女／男らしさ」というのも時代によって、環境によって、変化するものにほかなりません。女性が一族の長をつとめる文化もあれば、ピンクが男らしいとされていた時代もあります。

だとすれば、私たちのジェンダーというのは、生まれたときにすでに決められた自然なものではなく、社会によってつくられていくもの、と考えることができるでしょう。私たちは女／男である、というよりも、この社会の決まりに従って、女／男になる。シモーヌ・ド・ボーヴォワールは言いました——「ひとは女に生まれるのでない。女になるのだ」。

しかも、私たちは成長の過程のどこかで女／男として完成するわけではありません。他者から女／男だとみなしてもらうためには、そのつどそのつど、身のこなしや話し方を女／男らしくしなければなりません。その調整は私たちの日常生活世界においてつねに必要です。私たちは女／男を**する**(doing)のだともいえます。

この、ジェンダーを**する**という行為において、ファッションは主要な手段の一つです。どんな服を着てどんな靴を履くのか、どんなふう髪を整え化粧をするのか、あるいはしないのか、その一つひとつの選択を通して、私たちは女／男である自分を演じます。アーヴィング・ゴッフマンの**ことば**を借りるなら、この社会にはふさわしいとされる「女／男らしさ」があちこちに呈示されていて、その「ジェンダー・ディスプレイ」をもとに、私たちは女／男らしさを装い、その場にふさわしい女／男を演じているのです。たとえば就活の面接にはナチュラルメイクで挑む、でも合コンにはつけまつげを欠かさない、ふだんはジーパンばかり履いているけれど、リクルートスーツにはスカートを選ぶ、というように。きちんと演じられているということは、私たちが社会に適合した、まっとうな人間だということの証明にもなるでしょう。私たちはそうやって互いに演じあいながら、社会生活を送っています。ゴッフマンはこうした過程を「相互行為儀礼」と呼びます。

さらに、キャンディス・ウェストとドン・ジーマーマンは、当の女性たち男性たちはいつも自由な選択でジェンダーを**する**ことができるわけではない、という点を強調します。就活や合コンの場だけではありません、バイト先で、サークルで、教室で、時に私たちは女／男らしく振る舞うことを強いられます。家庭内でも、女性と男性で期待される役割が違うこともあるでしょう。私たちはいつもいつ

も気分次第で、好き勝手に、女／男を演じたり演じなかったりできるわけではありません。

ウェストとジーマーマンは続けて言います——私たちのジェンダーを¹する行為は、ただその場をうまく運ぶのみならず、「多くの場合、性別による支配と従属の関係を生産し、再生産することになるのだ」。私たちが求められるがまま女らしさを²体現すれば、その結果、女性は化粧をしてスカートを履くものだ、家事は女の仕事だ、というような、社会のジェンダー規範を維持してしまうことになりま³す。さらにそのくり返しが続くことで、女性とは男性を喜ばせ、ケアする存在である、それが自然だ、とさえ考えられるようになってしま⁴うでしょう。したがって、ウェストとジーマーマンは、ジェンダーは人びとが平和にとりおこなう「儀礼」以上のものであると考えます。つまり、「ジェンダーは、権力的なイデオロギ⁵ー^注の装置であり、性別カテゴリーに基づいて選択肢を限定するもの」なのです。

私たちはそれぞれの置かれた状況で、限られた選択肢のなかで、女／男を⁶する。そして女／男らしさを再生産している。だからこそ私たちは、女は女らしい、男は男らしい、ということ⁷をあたりまえだと感じ、自分が女である、彼は男である、と、何の疑いももたずに言うので⁸しょう。

(北村文「ジェンダーを⁹する 逸れる、盛る、かき乱すファッション」, 藤田結子・成実弘至・辻泉編『ファッションで社会学する』, 有斐閣, 2017年, pp.112-114より, 一部改変)

注 イデオロギー：歴史的・社会的立場に基づいて形成される、基本的なものの考え方。

問 1 下線部分の「そうやって互いに演じ」るとはどういうことか、80字以内で説明しなさい。

問 2 私たちの社会のなかに存在する「女／男らしさ」を示す事例を挙げ、日常生活の場面で「女／男を¹⁰する」ことについて、その事例を用いてあなたの考えを600字以上700字以内で述べなさい。

次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

——これといった持病もない84歳のBさんは、育ち盛りの息子2人をもつ長男の家族との同居で、食事も家族といっしょという恵まれた環境で暮らしていました。孫の1人は高校受験を控えて塾通い、下の子は野球部の部活でそれぞれ帰宅が遅いため、夕食は夜9時前後になる日がほとんどでした。

Bさんは、孫といっしょの賑やかな夕食が楽しみでした。おかずは育ち盛りの息子たちの好物が中心でトンカツや豚肉のソテー、焼肉などが頻繁に食卓に並んだそうです。数年前につくった入れ歯が合わなかったBさんは、分厚いトンカツや焼肉などはとても噛み切れず、いつも「年だから、からだのために肉はやめたほうがいい」などと言って、自分の分も孫たちに食べさせていました。さっぱりした性格の長男の嫁も、「お姑さんは、家でじっとしているから、カロリー控えめのほうがいいでしょうね」などと相槌をうっていました。そんな食生活が半年近く続いたある朝、Bさんは激しいめまいと頭痛で起き上がれなくなったのです。

おどろいて受診した大学病院での診断は、「低アルブミン血症」。つまりタンパク質が慢性的に不足したための栄養失調で、貧血も進行していました。Bさんの家族に、医師は「老人といえどもタンパク質は欠かしてはいけないし、貧血の改善には動物性のタンパク質も必要で、肉料理も週に1、2回は食べたほうが望ましい」とアドバイスしたそうです。

Bさんの場合は、食事療法が必要になる病気はもっていなかったのですが、食材や味つけは家族と同じものでよかったです。調理の形態を変えるべきでした。単調な生活の中で、家族との賑やかな夕食を楽しみにしていたBさんが、おかずを食べないことに、誰か1人でも「なぜ食べないのか？」と疑問を抱いていたなら、Bさんは栄養失調にならずにすんでいたことでしょう。

家族がいっしょに食べてあげさえすればいいというのではなく、お年寄りが元気に生きていくための食事が整えられているかどうかが問題なのです。

(落合敏『食べない人、食べられない人の介護食メニュー』、講談社、2007年、pp.20-21より、一部改変)

問1 本文を150字以上200字以内で要約しなさい。

問2 下線部の「お年寄りが元気に生きていくための食事」を整えるために、あなたならどのような点に配慮しますか。650字以上700字以内であなたの考えを述べなさい。